

平成 22 年 8 月 13 日

8 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、悪天候による入荷の減少と大手工場の積極的な手当てにより、スギ材を中心に好転している。スギは柱材の引き合いが強く、中目材も堅調な動き。ヒノキは、柱材の引き合いは弱いが、中目材は依然として品薄感強く好調を維持。価格は、入荷の減少と大手工場の手当て姿勢により、7 月後半から反発。スギは全般に強含みで推移し、ヒノキは柱材が弱保合で、中目材は引き続き強保合で推移。群馬の原木入・集荷状況は、スギ中目材にやや不足感。工場の操業は、8 月に入りやや低調だが、県の補助対象住宅は好調で上期で 400 戸の募集枠を超える勢い。価格は依然低迷。県内大手ビルダーは順調に受注しているが、零細工務店は苦戦している模様。大手も下期に県の補助が切れたらどうなるかと不安視しており、県木連は追加枠の獲得に行動中。

2. 米材

6 月の米国新設住宅着工数は、前月比 5%減の年率 54.9 万戸となった。米国の 7 月積みの丸太は、中国の買いに一服感が出て価格は弱含み。また、カナダ丸太も同様で、セカンドグロスが弱含み、オールドは保合。7 月の港頭在庫は約 4,300 万スクリブナー(約 19 万 m³)で前月とほぼ同様。また、ウェアハウザー社の 8 月積み米マツ IS ソートはまだ決まっていない。米材丸太は入・出荷、在庫が横這い。大型港湾製材工場の 7 月の荷動きは、バラツキはあるが前月より回復している様子。内陸部製材工場の荷動きは、依然低調で回復の兆しは見えない。

一方、製材品はこの春以降の入荷量増加の中で W F P (旧マックミラン) 材のみは減少傾向。産地の状況は、米国住宅販売・着工とも低水準で推移、製材品価格も 5 月から下落。カナダ製材品の米国向け輸出税は 6 月から 0%になったが 7 月から 10%に復活。上半期の米加製材品の中国向けは大幅に増加。米国挽き米マツ製品の日本への売り込み盛ん。産地価格は、米ツガ K D 割物が円高分ドル単価を上げるも、売れない角物は据え置き。国内販売価格変わらず。国内ビルダーの国産材志向の高まりで、米材構造材の引き合いは極端に減少。

3. 南洋材

サバ州は、例年に無い降雨と伐採規制で出材は大幅に減少。このため、各工場の手持ち在庫、特に良材が少なく、原木、製材品とも相場は引き続き強含み。サラワク州も悪天候が続き、出材に大きな影響。港頭在庫は少なく滞船も発生。各工場の在庫も不十分で相場は強含み。今月中旬からは断食も控え急騰も考えられるが、今回は消費国の需要を考慮してか投機的な動きが無く、小幅な上昇と見ている。PNG・ソロモンの出材状況は引き続き悪く、相場は強含み。丸太・製材品の入・出荷、在庫ともに横這い。原木の販売状況は、合板用は順調で製材用は低迷。製材品の産地価格は、引き続き強含みで、一部円高で相殺される面もあるが、コストアップと全般的な市況低迷から採算性は悪化。川下からは高値品は敬遠され、値頃感の物の引き合い強い。

4. 北洋材

7月に入っても造材閑散期で、ワニノ港からの配船は低調のまま。中でも日本向けはまばらで、一部シッパーの中国向けがコンスタントに続いている。一方、中国向けの貨車輸送は昨年並みに堅調に推移。アムール配船も、カラマツ丸太の中国向け価格の弱含みに乗じ、国内の合板メーカー各社は更なる下げを期待するも、下げ渋る現地側とのにらみ合いで成約進まず、船不足から配船は低調。エゾマツ丸太はオファー玉が極めて限定的で、価格は高止まり。月末になって中国の動きが活発化しつつあるとの情報。富山港・富山新港の7月丸太入荷は、12,401 m³(アカマツ 1,894 m³、エゾマツ 9,410 m³、カラマツ 1,097 m³)と先月比 36%減。製品は 7,439 m³で先月比 55%増。丸太はエゾマツ、アカマツ、アカマツ原板とも在庫減少し荷動きは順調。製材品は輸入製品、国内挽き製品ともに荷動きは悪い。在庫は 1.5ヶ月である。価格は丸太、製材品とも横這い。国内製材工場は生産調整中で、丸太挽き、原板挽きともに荷動き悪く不採算。

5. 合板

合板用丸太は、国産材特にカラマツは不足感から強含み。南洋材は引き続きメーカー在庫が低水準で、価格は強含み手当ては難航している様子。6月の国内の合板生産量は約 24 万 m³で、うち針葉樹合板は 20.8 万 m³(対前年同月比 118%)で、20 万 m³を越えたのは 3年ぶり。出荷量は 19.2 万 m³(同 130%)と好調を維持しているが、生産を下回ったため、在庫量は 17.2 万 m³となり、前月に比べ 1.5 万 m³増加。国産南洋材合板は、荷動き低調な中、価格は引き続き強保合。針葉樹合板は、新値への反応が鈍く、市場での手当ては一服状況で荷動きは落ち着いている。価格は横這いが続き、メーカー側は再度引き締める方針だが市場は様子見の状況。一方、輸入合板は、国産同様に荷動きは低調でタイト

な品目は殆ど無い。産地高は継続しているが入荷量も増加傾向のため、川上では価格転嫁への説得も迫力が欠ける展開。先行き輸入合板は、現状の荷動き不振と4月以降多めの入荷量が続いていることから、当初懸念されていた夏場の不足感は払拭された。産地原木不足の影響が出始めるのはこれからで、今後の入荷量は低水準との見方が強い。

6. 構造用集成材

原料は順調に入荷しており、不足も一服感がある。しかし、現地状況は依然厳しく、原木の品薄感は年内続きそう。フィンランド国内では大量の風倒被害木が発生したが、大半は小径木のためラミナの市況には影響は無い。また、現地は夏休みで7月出港が極端に少なく、9月の入荷減が見込まれる。国産RW、WW梁は依然品薄気味。柱は落ち着きつつあるものの値下げはない。全般的に荷動きは良く、販売は8月受注を控え、9月以降も好調で、9月は年内一番の忙しさになると予測。ラミナ価格は、第3クオーターの契約が終わり、275~285ユーロ/m³の高値で決着。入荷が秋以降と考えると、原料高は冬生産からになる。この1年値上がり続けたラミナ価格は製品価格にも影響を与え続けているが、もっとも厳しい価格は冬と考えられる。一方、輸入集成材は、原料と同じく現地の採算ベースと国内市況から60,000円/m³前後と思われ、梁に関しては値上げの方向で進んでいく可能性が大きい。管柱は落ち着きつつあるが、梁桁は依然品薄で原料不足が顕著。

7. 市売問屋

構造材は、国産材市況が慢性的に低調で、スギ、ヒノキともに当用買いに終始。外材は目立った動きなし。造作材は、国産材が住宅建設不振により動き鈍く、外材はスプルース、ピーラーの良材が引き続き品薄で、引き合い多い。市場買方の手持ち仕事量が少なく、特殊品以外は在庫意欲が乏しく模様眺め。梅雨明け後の需要の活性化が期待されたが今のところ不調。政府の即効性ある景気浮揚策を強く望みたい。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱は強含み、ヒノキKD柱・土台は変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角ともじり高。欧州材間柱等入荷少なく多少高い。ロシアアカマツ国内原板挽き、輸入材とも変わらず。WW、RWの集成材は梁、柱ともに変わらず、一時の品薄感はない。合板は針葉樹合板、ラワン合板ともに強含み、盆明け後値上げのアナウンスあり。床板は変わらず。プレカット工場の受注・加工とも順調に推移。工務店は、盆前の駆け込みの仕事が出てきてお

り、暫くは忙しい。休み明けも順調に仕事が出てくればと期待したい。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

事業名：林野庁補助事業「木材利用促進のための市場情報集積提供事業」

事業実施主体：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク